

科 目 名	必修／選択	単位数	年 次	学科
政治経済	選択（文系）	4	3	普通科

科目の概要	※「政治・経済」は公民科の科目です。下記の学習到達目標が達成できるよう、以下のように構成されています。なお、第1編「現代日本の政治と経済」の第1章「現代日本の政治」の範囲は、2年次の「公共」で学習していますので、授業の範囲から省略します。 ※第1編「現代日本の政治と経済」では、現代日本の経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。第2章で概念や理論について学びますが、第3章の内容は、第2章の学習内容に組み込んで学習します。 ※第2編「グローバル化する国際社会」では、国際政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。第1章・第2章で概念や理論について学びますが、第3章の内容は、第1章・第2章の学習内容に組み込んで学習します。 ※なお、「政治・経済」は「公共」の学習のうえに成り立つ科目ですので、学習全体を通して「公共」との関連を図ります。これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。
-------	---

教材名	教科書	「政治・経済」（東京書籍）
	副教材	最新政治・経済資料集(第一学習社) 完全 MASTER 政経＋公共 問題集 大学入学共通テスト(清水書院)

担当者	後藤 亜聡 池田 公人
-----	-------------

学習到達目標	①社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけます。 ②国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養います。 ③よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めます。
--------	--

学習方法	(1)授業や諸資料をととして、基本的な知識・技能を習得する。 (2)基本的な知識・技能を基に、様々な諸問題に対する思考力・判断力を身につけ、自らの考えを表現する力を養う。 (3)受験などに対しては、問題演習を通し解法に対する適応力を養成する。
------	--

評価基準と評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト・科目及び授業への取り組み	授業や学習への姿勢、小テストや課題への取り組みなど
	A	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて十分に理解しており、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べる技能を十分に習得している。	国家および社会の形成者として必要な考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用し、現実社会の諸課題の解決に向けて多角的に考察し、公正・適切な判断をする力が十分身につけている。	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い努力が顕著であった。

評価基準 と 評価規準 ルーブリック	B	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて概ね理解しており、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べる技能を概ね習得している。	国家および社会の形成者として必要な考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用し、現実社会の諸課題の解決に向けて多角的に考察し、公正・適切な判断をする力が概ね身についている。	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い努力が見られた。
	C	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解が十分ではなく、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べる技能の習得も十分ではない。	国家および社会の形成者として必要な考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用し、現実社会の諸課題の解決に向けて多角的に考察し、公正・適切な判断をする力が身についていない。	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い努力が見られなかった。

科目名「政治経済」

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備 考
4	第1編現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 2節 現代経済のしくみ 1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長	○家計および企業の経済活動や、各経済主体の相互関係について理解します。 ○なぜ経済は循環するのか考察します。 ○企業の活動や、株式会社の特徴について理解します。 ○現代の企業に求められているものは何か考察します。 ○市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解します。 ○市場は必ずしも万能ではないといわれる理由について考察します。 ○経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動が起こる理由について理解します。 ○インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるか考察します。		
5	5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能	○金融の役割や、金融政策の手段について理解します。 ○なぜ金融の自由化が進められ、それは日本経済にどのような影響を与えたか考察します。 ○財政の役割や、公平な税制のあり方について理解します。 ○日本の財政の課題を抱える課題や、持続可能な財政および租税のあり方について考察します。	19	
	3節 日本経済の発展と現状 1 戦後日本経済の発展 2 日本経済の現状	○戦後復興から高度経済成長の終焉までの日本経済の変遷と産業構造の変化について理解します。 ○バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について考察します。 ○バブル経済崩壊後の日本経済の状況や、2000年代以降に試みられた経済改革が日本社会に与えた影響について理解します。 ○日本経済が抱える課題を解決するにはどうすればよいか考察します。	7	
6	4節 福祉社会と日本経済の課題 1 公害と環境保全 2 農業・食料問題 3 中小企業の現状と課題	○公害問題が発生する理由や、公害を防止する方法について理解します。 ○持続可能な社会の形成のために自分たちにできることは何か考察します。 ○戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解します。 ○これからの日本の農業と食料はどうあるべきか考察します。 ○日本経済における中小企業の地位や、日本の中小企業が抱える課題について理解します。 ○日本経済の活性化のためにどのような中小企業政策が必要か考察します。		

7	4 情報化の進展と社会の変化	○情報化の進展が社会にもたらしているイノベーションや、「第四次産業革命」が社会生活にもたらす変化について理解します。	1 7	夏期講習
	5 消費者問題	○デジタル社会においてどのようなことに注意すべきか考察します。		
	6 雇用と労働問題	○消費者問題が発生する理由や、消費者保護のために行われている施策について理解します。		
8	7 社会保障と福祉	○消費社会において、自分たち消費者にはどのような知識や行動が求められるか考察します。	8	前期期末 考查
	第2編 グローバル化する国際社会	○労働問題が発生する理由や、憲法や労働三法が保障する労働者の権利について理解します。		
	第1章 現代の国際政治	○雇用・労働問題を取り巻く状況と、これからの日本の雇用のあり方について考察します。		
9	1 節 国際政治のしくみ	○社会保障制度の発展・変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解します。	1 4	
	1 国際政治の特質	○社会保険制度の発展・変化や、日本の社会保険制度の特徴と課題について理解します。		
	2 国際社会と国際法	○少子高齢社会においてどのような福祉社会を築いていけばよいか考察します。		
10	3 国際連合の役割と課題	○主権国家と国際社会の形成過程や、国際社会の特徴について理解します。	8	
	2 節 複雑化する国際政治と日本	○現代の国際社会には主権国家以外にどのような主体があるか考察します。		
	1 戦後国際関係の展開と日本	○国際社会の秩序維持の要因や、国内法と比較した国際法の特徴について理解します。		
9	2 冷戦後の国際関係と日本	○国際司法機関がどのような役割を果たしているか考察します。	1 4	
	3 地域主義の動き	○集団安全保障のしくみが必要とされた背景や、平和と安全を維持するための国際連合の取り組みについて理解します。		
	4 軍縮の動向と課題	○国際連合が抱える課題について考察します。		
10	5 紛争・難民・テロリズム	○第二次世界大戦後の国際関係や、冷戦体制の変化について理解します。	8	
	6 国際社会における日本の役割	○日本はどのようにして国際社会に復帰し、どのような立場で行動してきたか考察します。		
	第2章 現代の国際経済	○冷戦終結後の国際関係の変化や、現在の国際社会が抱える課題について理解します。		
10	1 節 国民経済と国際経済	○日本は国際平和や安全保障のためにどのように行動していくべきか考察します。	1 4	
	1 貿易と国際収支	○世界で地域主義が進んでいる理由や、EU の成立過程および特徴について理解します。		
	2 戦後国際経済体制の展開	○地域主義の動きに日本はどのように関わっているか考察します。		
10	3 発展途上国の経済	○核抑止体制の問題点や、軍縮をめぐる現在の動向について理解します。	8	
		○日本は唯一の核兵器被爆国として、軍縮に向けてどのように取り組むべきか考察します。		
		○近年、国境を越えたテロリズムが多発している理由について理解します。		
10		○地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、また日本は難民問題に対してどのように向き合うべきか考察します。	8	
		○日本の外交や安全保障が直面している課題や、今日の国際社会において日本に求められている役割について理解します。		
		○日本の国際協力や開発援助はどうあるべきか考察します。		
10		○貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取引きについて理解します。	8	
		○為替レートがどのような要因によって変動するか考察します。		
		○現代の国際通貨体制の変遷や、近年経済政策の分野で各国の政策協調が必要になっている理由について理解します。		
10		○地域経済統合や FTA・EPA が自由貿易の進展にどのような影響を与えるか考察します。	8	
		○南北問題の解消に向けた国際社会の取り組みや、新興経済諸国の現状について理解します。		
		○中国の台頭によって世界経済にはどのような変化が起こっているか考察します。		

11	2 節 世界経済の現状と課題	○経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解します。 ○現在の世界経済はどのような課題を抱えているか考察します。 ○地球環境問題や、地球環境問題への対応をめぐる国際社会の利害対立について理解します。 ○脱炭素社会の構築に向けて各国政府や自分にはどのような取り組みができるか考察します。 ○資源・エネルギーに関する課題や、原子力発電に関する日本および各国の政策について理解します。 ○日本のこれからのエネルギー供給はどうあるべきか考察します。 ○21 世紀の世界人口の変動予想や、貧困の発生要因について理解します。 ○持続可能な社会の形成に向けて国際社会はどのように取り組むべきか考察します。	1 0	
	1 グローバル化する世界経済 2 地球環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 人口・貧困・感染症			
12	問題演習		3 7	冬期講習